

いのうえ ゆういち とうきょう だいくう しゅう
井上有一 東京大空襲

2025年7月19日(土)～8月31日(日)

今回の展示では、書家・井上有一の凄惨な体験から生まれた作品《東京大空襲》を展示します。井上有一の没後40年、かつ終戦から80年となる今年、書を美術の視点から読み解き歴史に迫ります。

井上有一は大正5（1916）年に東京の下町で生まれました。東京府青山師範学校（後に東京第一師範学校、現在の東京学芸大学）を卒業して、東京市本所区にある（現在の東京都墨田区）横川尋常小学校（後の横川国民学校、現在の横川小学校）の小学校訓導（教諭）となります。

第二次世界大戦中の昭和20（1945）年3月10日未明、300機を超えるアメリカのB29爆撃機によって、ナパーム弾などの焼夷弾を用いた、大規模で無差別な戦略爆撃が東京の下町に対して行なわれました。死者・行方不明者数は10万人を超える、いわゆる東京大空襲です。当夜、横川国民学校で宿直をしていた井上はこの空襲に遭遇し、翌朝、おびたしい死体の中から仮死状態で発見されました。彼は奇跡的に生き延びましたが、一夜にして横川国民学校だけで千人以上が死に、なにより卒業式のために彼が疎開先から連れてきていた、6年生の生徒8人もこの時亡くなっています。

その日から、彼は東京大空襲の惨状をいつか表すことを自らに課して、小中学校で教職を続けながら書の前衛的表現を追究していきます。定年退職後、東京大空襲から33年後の昭和53（1978）年、《東京大空襲》33点と《噫横川國民學校》3点を制作しました。《東京大空襲》は全点同じ内容の詩（七言絶句）の形式をもつ、40日間で500枚ほど書いた中から選び出された33点で、そのうち30点が当館の所蔵になっています。以下の書き下し文などもご参照ください。

№	作者名	作品名	制作年	技法材質・形状	寸法（縦×横cm）	備考
1	いのうえゆういち 井上有一	とうきょうだいくしゅう 東京大空襲	昭和53（1978）年	紙本墨書	各188.0×71.0	30点組

* 作品保護のため、会場内の温度、湿度、および照度を調整して展示しています。
また、都合により展示作品を変更する場合もございます。ご了承ください。

《東京大空襲》

猛火狂奔襲難民 親庇愛兒兒絕親

米機殺戮十萬人 江東一夜化地獄

右昭和二十年三月十日東京大空襲 余前夜本所区横川国民学校宿直 終生不可忘 井上有一録之

^{きょうほん}
猛火狂奔し、難民を襲う

^{かば}
親は愛児を庇い

^{すが}
児は親に縋る

さつりく
米機殺戮すること十万人 江東一夜地獄と化す

右、昭和二十年三月十日東京大空襲 余、前夜に本所区横川国民学校にて宿直す 終生忘るべからず

井上有一之を録す

* 七言絶句は全点に共通して記され、年記以下は少しずつ異なっていますが内容的にほぼ共通しています。

【次回予告】「生を見つめて」 9月13日(土)～10月26日(日)

東京大空襲で亡くなった太田出身の福田元子による花鳥を細やかに描いた作品や、岡本彌壽子による未来あふれる女子学生への温かな思いを感じさせる作品など、命をみつめる作品をご紹介します。

群馬県立近代美術館